



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.12.6 No. 2905

11・30-12・1スト

10万人首切り攻撃に 反撃の第一歩築く!

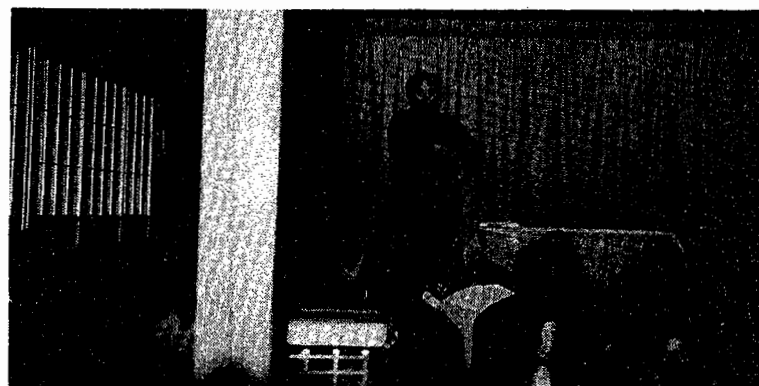


意気軒高とスト貫徹！千葉転支部

一月三〇日午前、千葉運転区支部拠点には勤務終了者、スト突入予定者が続々とつめかけ、椿支部長より指示を受ける。同時に青年部は千葉駅に向きピラマキを行なう。こうして千葉転では意気軒高とストに突入した。続く一日、弁天町会館において総決起集会を開催した。

集会は山口副支部長の司会で始められ、椿支部長のあいさつ、大野書記長の行動提起を受けた後、本部・布施副委員長より千葉支社の悪辣な攻撃、動労千葉の闘いが明確にされた。集会終了後、千葉転当局に抗議行動を行い、ストは貫徹された。

千葉転・津田沼・京葉拠点報告



ストライキで決意新たに！津田沼支部 俺たちは固く闘う！京葉支部

津田沼・京葉支部は、荘司・山田両支部長を先頭に、一糸乱れることなく一一・三〇〜一二・一ストを打ち抜いた。

当局の執拗な組織破壊に負けず、闘いを通し、「当局の卑劣なやり方を上回る根性と団結をもって、必ず勝利を握ろう」と誓ったのである。

スト一日目の夜(三〇日)役員、スト対象者等が職場近くに「籠城」。被解雇者の椿さんもまじえ、情勢の把握や団結の尊さを語り合い、熱い思いを胸にしなが、二日間のストライキをやりぬき、解散した。

強制配転者怒りのスト決起!

一一・三〇〜一二・一ストライキに、われわれ動労千葉は敢然とストライキに決起した。

当日一八時より、千葉市文化センターにおいて開催された総決起集会には全支部より三〇〇名が結集し、今次「一二月ダイ改」の地方交通線切り捨て、「時短」合理化粉砕へ向け、初めてダイ改移行日にストライキをぶつけた意義と成果を全体のものとした。

労働組合かくあるべき!

集会では冒頭中野委員長が主催者を代表して、一一・一ストがJR東日本のやり方に対する労働者の意思表示であることを明らかにし、解雇撤回・清

古くて新しい階級闘争の第一級の原点

算事業団闘争の中労委段階情勢の中で、国鉄労働運動が事の左右を握るものであること、さらには大失業時代の到来「日本改造計画」に代表される世の中の仕組みを根本から変える攻撃に対し、今次ストこそ労働組合かくあるべきと突きつけたものだと言えた。

続いて来賓挨拶を受け、続いて田中書記長の基調のあと、各支部代表、乗務員・営業分科会、清算事業団、そして青年部から怒りも新たな決意表明を受けた。

解雇者・強制配転者・運転士の三位一体となった闘いが、全情勢を転換させていく力であることを確信し全員が各拠点へと散った。

組織強化を勝ちとる！木更津支部

木更津支部は、山中支部長を先頭に新執行部でストライキが貫徹された。

一月一日、拠点支部における集会は、全乗務員及び当日の勤務以外の全組合員が結集して行なわれた。

集会では、山中支部長から、今次ダイ改における千葉支社や現場管理者の対応などを厳しく弾劾した後、「現在の要員配置では休みが取れない」など問題点を提起し、闘って勝利しようという力強く訴えた。

その後、本部から派遣の山口執行委員から情勢報告を受け、全乗務員による新たに導入された「乗務員勤務」の検討会が行なわれ、今次「ダイ改」での取り組みを含めて意思統一が図られた。

今次ストを通して、木更津支部は新たな決意と、団結強化が勝ちとられた。

